

平成29年8月21日（月）
平成29年度 二学期始業式 挨拶

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

日常性でこそ、主体性や充実感、達成感を

今年のインターハイでは、ボート女子ダブルスカルで、3年生の 佐藤理奈穂さん、五十嵐のどかさんがこの種目で本校初の優勝、カヌー・スプリント500m男子カヤックペアで、1年生の 佐々木絵君、阿部智礼君 ペアが8位入賞、カヌー・スプリント200m男子カヤックシングルで、1年生の 松川瑛君 も8位入賞と、本校生のもつ可能性を全国の晴れ舞台上で示してくれたました。ともに、校歌で歌われているふるさと児水の子吉川が育んでくれたと言えるかもしれません。

カヌーの1年生は、今回のインターハイで、いろいろな学びがあったはずで、今後の一層の活躍を期待します。

佐藤さん、五十嵐さんは、19歳以下日本代表で、全日本ジュニア選手権シングルスカル1位、2位の選手で組む最強のライバルに、本番では絶対に勝つという目標に向けて、常にお互いに意見を交わしながら、自ら練習メニューを考え、日々練習に励みました。自ら課題を認識しその克服のために、主体的に努力を積み重ねたその取組には、未来を拓く大きなヒントがあるような気がします。

3年生の高校生活も残り半年となりました。一学期始業式の挨拶で、「未来へのまなざしが、今を輝かせる」というお話をしました。

佐藤さん、五十嵐さんのインターハイという本番に向けての練習は、ただ厳しく辛かったばかりではないはずで、特に、高校生が高い志をもち、自らの目標の達成に向けて、主体的・自律的に粘り強く取り組む日々には、自ら練習に工夫を凝らす楽しさ、深めることができた信頼関係、日々やりきっている達成感、目標に一步步近づいている充実感等があったはずで、

部活動であれ、勉学であれ、本物の真の力は、実は日々の日常性で培われます。そして、やらされるのではなく、自ら考え、自らやりきる努力の日々が人を成長させます。

高校生活では、運動会、玲瓏祭、クラス対抗といった生徒会行事や修学旅行、各種大会等という、言わば特別な行事や日に目を奪われがちですが、日々の勉学、部活動という日常性に潜む適度な緊張感やささやかな達成感、充実感を大切にしたいと思えます。もちろん、それらは学校や誰かから与えられるものではありません。高校生として自ら手にしていくものであるはずで、

東日本大震災を経験した日本人は、日常性をもつ幸せを再発見しました。高校生として未来にむかって、日常の「今この時」を充実させてください。

3年生の皆さんには、未来の扉を拓く「試練の日」が近づいています。本番ではそれぞれが冷静に底力を発揮してくれることを期待します。確かな学力や豊かな人間力は、日々の地道な継続でこそ培われる、また、勉強のための勉強ではなく、本番を踏まえた日々の努力こそが、試練の場で唯一自分を支えてくれる確かな自信となるものだということを、3年生の皆さんはこれまでの大会等で学んだはずで、

生徒の皆さんが、自ら自分をマネジメントする「主体性」や、ささやかだけれども確かな充実感、達成感に満たされた二学期を過ごすことをお願いして、二学期始業式の挨拶とします。